



趣味が高じて 葉巻の「家元」に

奥井 規晶

インターフュージョン・コンサルティング
取締役会長

私は「葉巻好き」です。この趣味が高じて政財界の葉巻仲間と10年前に作ったのが「日本キューバ・シガー教育協会」で、現在専務理事として実質的に協会運営を任されています。この協会では、「シガーエキスパート」「シガーマネジャー」という資格認定をしており、その試験問題作成、試験の実施、合格者の認定も私が行っていますので、いつの間にか「葉巻の家元」となってしまいました。

そこで試験によく出すうんちく問題をご紹介します。「たばこを発見した西洋人は誰？」「たばこは当初どんなものとして欧州で使われた？」「葉巻を欧州中に広めたのは誰？」「葉巻に由来する男子の服装は？」。どうでしょう幾つ答えられますか？

順番に正解を述べると、まず、たばこを発見した西洋人はコロンブス（の船団の乗組員）です。1492年アメリカ大陸発見時に現地人の喫煙習慣を発見したのですが、コロンブス自身は興味を持たず、その乗組員の荒くれ者たちが広めたそうです。16世紀半ば駐ポルトガルのフランス大使ジャン・ニコが、片頭痛に悩まされていた女王に「頭痛薬」としてたばこを献上しました。最初は頭痛薬として使われていたのです。ちなみに「ニコチン」はこのニコ氏の名前が由来です。こうしてスペイン、ポルトガルに広まった喫煙習慣を欧州中に広めたのはナポレオンで、19世紀初頭のイベリア半島戦争でフランス軍に広がり、その後のロシア遠征等で欧州中に広まりました。19世紀後半、七つの海を制した大英帝国時代に紳士が食後に葉巻を吸う習慣が広まり、においがつくのを避けるために作られたスモーキング・ジャケットから生まれたのが、現在男子の正装であるタキシードです。

日本には16世紀後半の戦国時代にポルトガル人が鉄砲とともにたばこを伝えたらしく、江戸時代には「キセル」として愛用されたので、歌舞伎にも時折登場しています。

日ごろ、嫌われ者のたばこですが、このように歴史のうんちくを知ればなんとなく親しみを覚えるのではないのでしょうか？

次回リレートーク：村本 豊彦（ブラスト 取締役社長）